THE JOURNEY OF THE KOBE RESEARCH COMPLEX COUNCIL

神戸リサーチコンプレックス協議会の歩み

目次

P02　はじめに

▶ **コア事業の取り組み**

P03-04　神戸リサーチコンプレックス事業と健康関数事業における取組
神戸大学　渡辺 恭良先生

P05　データ駆動型社会の実現に向けて
神戸大学　川井 享代先生

P06　健康・医療データの利活用にむけて
兵庫県立大学　竹村 匡正先生

▶ **人材育成の取り組み**

P07　大学発スタートアップと学生起業の支援 / 神戸大学
情報シミュレーション系人材育成の取り組みについて / 兵庫県立大学

P08　健康生活をガイドしていく人材育成事業を社会実装していく社団法人 /
(一社) 次世代健康社会・ヘルスケア推進協会
研究と創造を融合しライフサイエンス分野の新領域を切り拓く /
(株) COPEL コンサルティング

▶ **参画企業の取り組み**

P09　「健康寿命の延びる沿線」実現に向けて / 阪急阪神ホールディングス(株)

P10　SMBC グループの神戸医療産業都市への取組について / (株) 三井住友銀行
より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。/ シスメックス(株)

P11-12　▶ **活動年表 2015～2025**

P13　▶ **参画機関一覧**

P14　おわりに

はじめに

神戸リサーチコンプレックス協議会は神戸におけるヘルスケアのエコシステムの形成を目指して、神戸市・兵庫県を事務局として2020年4月に設立されました。

本協議会の前身として、2015年、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施した「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム」に「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」(中核機関：国立研究開発法人理化学研究所）が採択され、神戸におけるリサーチコンプレックス事業が開始しました。本プログラムは異分野融合による研究開発・事業化・人材育成を通じたヘルスケアエコシステムの構築を目指し、産官学金のプレイヤーが集まり2019年度まで実施されました。

本プログラムの中心的な研究であった健康状態を可視化する指標の開発などを目指した「健康関数®事業」と、PHR基盤への様々な健康データの集積及びその利活用を目指した「ヘルスケアデータHUB事業」をコア事業に据える形で、当協議会の取組は始まりました。
これまで延べ100機関の企業やアカデミアなどに参画いただいております。

本協議会では、コア事業やその他のヘルスケアシーズの事業化の促進をサポートするため、最新の研究などを発表いただく機会やマッチング機会の提供、実証実験の支援、人材育成に繋がる活動などのプラットフォーム事業を進めてきました。

本協議会は設立当初の計画どおり2025年3月で設置期間が終了し、今後は協議会の機能の一部を継承して新たな取組を進めていく予定です。
設置期間の終了にあたりこれまでの協議会の歩みについて取りまとめることを目的に本書を作成いたしました。

皆様のご参考になれば幸いです。

神戸リサーチコンプレックス事業と健康関数事業における取組

2025年1月17日シンポジウム「プレシジョンヘルス最前線 －健康の見える化を目指す－」より

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 特命教授
理化学研究所 生命機能科学研究センター 客員主管研究員/名誉研究員
渡辺 恭良

■リサーチコンプレックス事業について

2015年、JSTの事業である「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」第一号に神戸・兵庫県のプログラムである「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックスプログラム」が採択されました。

事業実施にあたり、一人一人の健康を最大化することが最も重要であるという考えのもと、総合的に我々の健康の度合いを知るためにはどうすればよいかということを、企業や研究機関等、多くの方々に参画していただきながら、研究していくことにしました。

研究は、理化学研究所や他の大学、日本疲労学会などの私たちのそれまでの30年間の研究活動の成果を基盤として、京都大学の奥野先生をはじめ、理化学研究所の水野先生、金田先生、京都大学の岩田先生のチームがそれぞれ分担して進めてきました。もちろん、研究だけではなく、事業化や人材育成も含む、しっかりとしたエコシステムを神戸に作るべく戦略的に活動してきました。

2020年3月末までの第一期5年間超のプログラム終了に伴い、JSTからの補助が終了したことから、その後は自立して活動する必要があり、現在の形である神戸リサーチコンプレックス協議会を設立しました。それまでの活動の中で、約4,000人の新規健康計測を行い、「健康関数®」を用いた総合的健康度のポジショニングマップ上に個人個人の情報をプロットすることに成功していましたが、新型コロナウイルスの影響により対面で多くの人を集めて計測を行うことが困難になったことから、健康計測や研究が思うように進まず、思い切った研究の加速ができませんでした。このような状況の中でも、計測にかかるフランチャイズシステムを構築し、神戸の他にも大阪や東京、浜松などで計測を行いながら研究を進めてきています。

私たちは、単に健康寿命を延伸するだけでなく、人間が創造的に社会に貢献することが可能な状態を目指し、「クリエイティブウェルネス(Creative Wellness)」をキーワードに活動を進めています。

総合的に健康度を考える上では、一つの観点から見るのではなく、例えば生活習慣病や認知症、うつ、がん、感染症など、さまざまな角度から見たものを統合する必要があります。さらに、それをできるだけ低コストで社会に実装するにはどうすればよいかを考えなければなりません。

これからも、アンチエイジング、疲労研究などの概念も含むプレシジョンヘルスの研究を推進し、さまざまな分野の方々と共創しながら、活動を続けていきます。

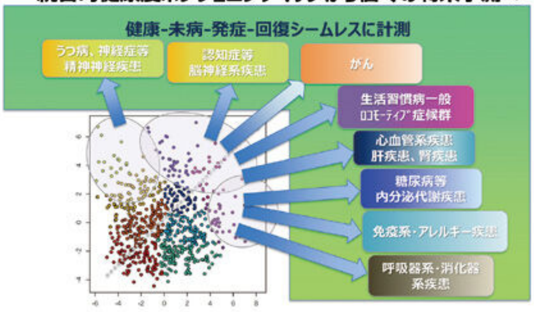
■Precision Healthcare の推進と未来像

総合的に健康の度合いを評価する上では、これまで漠然とした概念であった「健康」を、ライフサイエンス技術や統合的解析技術により「精密な健康

（Precision Health）」とし、新しい健康のコンセプトとして取り入れています。一口に健康といっても、軽度の不調の有無などを含め様々な状態があり、その状態がどの程度健康なのかということを定量的に表そうという技術です。そのためのアルゴリズム「健康関数®」を考案し知財化した、私たちの研究チームが世界に先駆けて創製したものです。
個別の疾患に対する「未病指標」はすでに存在していますが、健康度の脆弱性を総合的に見る指標はまだ確立されていませんでした。個別の指標を束ねていく新たなデータベースが必要となります。
健康データベースを作成するにあたり計測できる項目はたくさんありますが、その中で、生活機能、認知機能、感覚機能、運動機能といった、身体の「機能」を計測することを中心に考えていくことにしました。
健康の度合いをどう精緻に示すかということを考える中で、疲労や慢性疲労が身体の不調を如実に表しているということが見えてきました。
月80時間以上の勤務を行っていた大企業の社員に対して追跡研究を行うと、まず初めに、自律神経系の機能低下が起こります。それから睡眠の質の低下、取れない疲労、抑うつ、アレルギー性疾患、他の疾患などが起こってきます。
しかしながら、労働安全衛生法に定められた健康診断では自律神経系や睡眠の質、客観的な疲労度合いを測定していません。健康診断は病気の検出には重要ですが、これだけで健康の度合いを評価するのは不十分です。
私が会長を務める日本リカバリー協会では2016年から10万人規模の調査を行い、疲労の実態を把握しています。疲労の原因は多岐にわたり、さまざまな要因が絡み合って影響を与えます。
疲労は身体に休息を命ずる重要なアラームですが、多数の病気の下地となることがあります。あるいは、多数の疾患で見られる症状の一つでもあります。
これまでの疲労医学研究や健康脆弱化追跡研究から、疲労、健康脆弱化、老化、疾患発症には共通のメカニズムがあることが明らかになりました。

これらをふまえ、疲労の度合いを計測し、それを活用して総合的な健康度を評価するための研究を進めてきています。
先に述べたように、これまでの活動の中で、約4,000人の健康計測を実施し、AIを用いた新規解析アルゴリズム「健康関数®」を開発することにより、一人ひとりの健康度の現在地を表す「総合的健康度ポジショニングマップ」を作成することに成功しました。現在は、さらにその後病気になった人がどの位置にいるのかも含めたビッグデータの作成に向けた研究を進めているところです。将来的には、個々の位置に応じて、多数の解決策を試した方々の位置変動ベクトルデータを基に、どういう解決策（ソリューション）を取れば健康度がどのように（質）どの程度（量）良くなるのかといったことを提供し、健康の増進に役立ててもらうことを事業化しようと考えています。

統合的健康度ポジショニングマップから個々の将来予測へ



これを社会実装するために、多くの企業や研究機関と協力し、実際に健康経営検診や健康に貢献する製品評価事業を実施できる体制が整ってきています。
最も重要な観点は、多くの方々に「健康関数®」、「総合的健康度ポジショニングマップ」を知って使っていただき、多数の産業界の方々と個人個人の全方位的な健康度を最大化させる製品を開発して、多数の方々に自分の好みの戦略を選んで使っていただくことによって、「Creative Wellness」を達成することにあります。超高齢社会の最重要課題に対するチャレンジです。
今後も科学者、産業界の多くの方々のご協力とご支援をいただきながら、健康関数®事業を進めていきます。

データ駆動型社会の実現に向けて

～神戸大学AI・デジタルヘルス科学分野の取り組み～

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命准教授
医学研究科AI・デジタルヘルス科学分野（兼任）
川井 享代

神戸大学大学院医学研究科 AI・デジタルヘルス科学分野は、「神戸リサーチコンプレックス協議会」のヘルスケアデータ HUB 事業において、健康・医療データの統合基盤構築やビッグデータ分析技術の開発、法的・倫理的課題の検討に取り組んできました。特に、分析技術の高度化だけでなく、その成果を社会全体や個人に還元することを重視した「社会還元型アプローチ」を特徴としています。

1. 介護リスク予測 AIモデルの開発と社会実装

神戸市と連携し、65歳以上の市民約 38 万人分の健診データ、レセプトデータ、認定調査票データを用いた「介護リスク予測 AIモデル」を開発しました。このAI は、非常に高い精度で 2 年以内の要介護リスクを個別に予測し、要因を提示することができます。この AI は様々な利用法が考えられます。例えば、自治体はこれを活用することで、ハイリスク者を特定し、適切な介護予防・介入策を講じることが可能となります。令和 7 年には社会実装フェーズに移行しました。

2. 兵庫県及び県内自治体との連携による医療ビッグデータ分析

兵庫県全体のKDBデータや骨粗鬆症健診データを分析し、県内の骨折・骨粗鬆症患者数や治療実態を明らかにしました。この分析結果は、県はもとより、医師会などの医療関係者に提供され、健診受診率向上や適切な治療行動の推進に向けた新たな取り組みに発展しつつあります。
また、県内の DPC 病院約 250 施設から収集された大規模 DPC データを活用し、地域医療需給の適正化を目的とした様々な分析を実施しました。分析結果は、地域医療構想調整会議での報告を通じて、行政の医療政策に活用されています。さらに、KDBとDPCデータの連結分析により、個人の入退院や治療の流れを時系列で追跡できるようになり、従来は断片的にしか把握できなかった地域住民の健康状態を連続的・包括的に把握することが可能となりました。自治体が保有するビッグデータの分析は、保健・医療分野の課題解決や行政サービスの向上に不可欠な基盤技術であり、その重要性は今後さらに高まると期待されています。

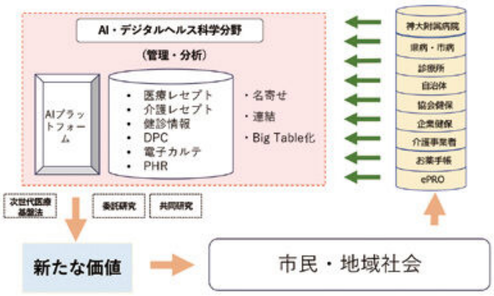
3. 患者参加型がん治療支援ツールの開発

患者の生活情報や有害事象情報をePROや電子お薬手帳に記録し、主治医が診察に活用できるシステムを開発しました。患者の記録継続率は 90% を超え、実用性の高さが確認されました。

4. 今後の展望

今後も、社会還元を重視したデータ駆動型研究を推進し、健康・医療分野におけるデジタル技術の発展に貢献していきます。

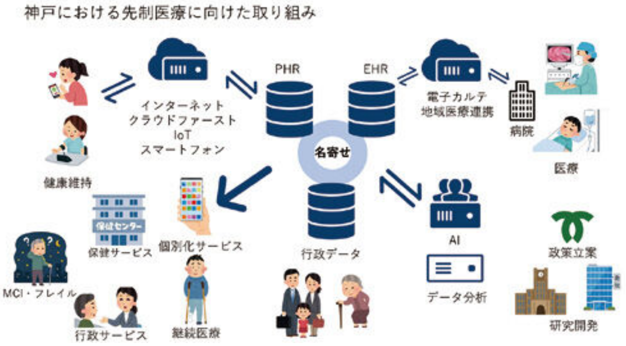
◆ 各所に散在する医療RWDを連繋し、医療・介護分野で新たな価値を創造



健康・医療データの利活用にむけて

兵庫県立大学大学院情報科学研究科・教授
竹村 匡正

我が国の健康医療サービスは、疾患になる前に介入する「先制医療」を実現することが重要と言われています。そのためには、我々の体はどのように疾患に罹患するのかについて、生活データやバイオセンサー等を利用することで疾患に罹患するプロセスを明らかにし、その上で個別に罹患を予防することが期待されています。これらの実現に必要なものとしては、我々の生命の仕組みに対する深い理解はもちろんのこと、情報科学の利活用が必要だと考えられます。具体的には、疾患に至るプロセスを解明するための生活データやまた体内でどのような変化が起こっているのかなどのモニタリングを行う必要があります。これにはウェアラブルデバイスや、また食事の状況などの健康に関するデータを獲得する必要があります。また、ジム・グレイの言う「第四の科学」に見られるように、情報化された社会では多くのデータが発生し、その結果それらのデータから帰納的に知識を抽出するというパラダイム・シフトが起こっています。これは、データサイエンスや機械学習・AI等として実現され、データに基づいてより個別最適な予測が可能になることが期待されています。
しかし、これらのデータをどのように利用するのかを考えた場合、データを蓄積する基盤が必要です。本リサーチコンプレックスでは、このような健康データを蓄積する基盤が必要であるという考えの元、当初から「データ HUB（市民 PHR 基盤）」の実装が志向されてきました。健康データは医療データ以上に多種多様であり、これらの標準化は極めて困難です。また、ログデータなどを含むリアルタイムデータを取り扱う必要があります。そのため、蓄積するデータに関しては標準化を求めずにどのような形式でもデータを蓄積可能であり、かつ利用できるようなデータベース技術を用いた基盤として実装し、永続性が担保される仕組みを構築できました。また、データの価値は様々なデータの関連性から相乗的に高められることが期待されています。そのため、個人を基軸に様々なデータを突合し、データアライアンスを組むことが必要であり、これを産官学医で連携することで大きな価値を生むことが期待されます。データHUB の社会実装という意味では道半ばかもしれませんが、これらの基盤に基づいて個別化された先制医療が実現できれば、これは真の「健康医療 DX」といえるものであり、今後も神戸医療産業都市での実現につなげていきたいと考えています。



神戸大学

大学発スタートアップと学生起業の支援

神戸大学 研究推進部 連携推進課
課長補佐　丹治 義之

神戸大学ではリサーチコンプレックス事業で蓄積した実績等をもとにして、アントレプレナーシップセンターを設立し、最先端の研究成果や学生の発想によるスタートアップ企業の創出を展開しています。
大学で子会社を設けて産官学連携による大学独自のベンチャー育成ファンド運営や、学生の「起業部」活動を通じて、さまざまな社会課題の解決に貢献する技術開発と、イノベーションを生み出す人材育成に取り組んでいます。今後もアントレプレナーとスタートアップの輩出を目指し人材育成に努めていきます。

兵庫県内唯一の総合国立大学。人文科学から自然科学、社会科学、生命・医学系まで幅広い分野をカバーしています。

兵庫県立大学

情報シミュレーション系人材育成（兵庫県立大学・先端医療工学研究所）の取り組みについて

先端医療工学研究所 医産学連携・研究支援コーディネーター
濵口 行雄

■ 事業の目的
神戸リサーチコンプレックス協議会会員の事業者・研究者などを対象に情報シミュレーションをベースとした「医工連携のビジネスシーズ・ニーズ・取組事例」、「最先端の研究」に関する最新情報を提供し、健康・医療ビジネスのイノベーション創出を支援する。

■ 事業の概要
①事業内容
・医工連携のビジネスシーズ・ニーズ・取組事例
　⇒医工連携セミナー（年４回開催）
・最先端の研究
　⇒学術交流会（年４回開催）
全てハイブリッドにて、毎年８回実施
②推進体制
神戸リサーチコンプレックス協議会
⇔〈窓口〉社会価値創造機構
⇔〈実行組織〉先端医療工学研究所

■ その他の協業
神戸リサーチコンプレックス協議会・COPELコンサルティング主催のセミナーに兵庫県立大学、先端医工学研究所の教員を派遣。

令和４年４月に、兵庫県立はりま姫路総合医療センター内に先端医療工学研究所を新設。医療機関と直結の利点と、兵庫県立大学の有する自然・人文・社会科学の知の蓄積を活用し、デジタルヘルスなどの画期的な医療ヘルスケア機器、プレシジョン栄養学、看護介護工学に取り組んでいる。

一般社団法人 次世代健康社会・ヘルスケア推進協会

The Incorporated Association of Future Design for Healthy Life and Health-Care Living（略称：FDH&H）

健康生活をガイドしていく
人材育成事業を社会実装していく社団法人

代表理事　八村 大輔（株式会社メディシンク 代表取締役）

FDH&Hは、文部科学省主導の国家プロジェクト「神戸リサーチコンプレックス」から健康教育事業を社会実装すべく設立した社団法人です。協議会幹事企業として、美容サロン等の日常生活動線内で健康チェックトライアルを実施し、計測の意義を広め、顧客獲得やサービス向上に役立つノウハウの実証をしています。

主な活動として、健康生活コンシェルジュ育成事業を起点に、健康状態の測定補助、状態把握、生活アドバイスが提供できる人材育成のための親子向け教材開発から、eラーニングやセミナー受講を通じて、ヘルスリテラシー向上社会の確立を目指しています。

直近では企業内で健康経営責任者としてCWO（Chief Wellness Officer）やその組織基盤として未来予測責任者CVO（Chief Visionary Officer）職の育成事業も準備しています。

事業内容 / 健康計測データ利活用、健康促進のための人材育成の社会実装
所在地 / 神戸事務局：株式会社トータルブレインケア内　兵庫県神戸市中央区港島中町4-1-1-6F
東京事務局：株式会社メディシンク内 東京都港区高輪2-1-13-1003　URL：https://fdhh.jp

株式会社COPELコンサルティング

研究と創造を融合し
ライフサイエンス分野の新領域を切り拓く

代表取締役　小島 ゆかり

当社は2019年設立以降、ライフサイエンス分野の産学連携の推進において、人々の心身の健康維持・増進につながるソリューションを創出すべく、様々な人材育成事業を行ってきました。その中でも、次の3つを継続して取り組んでいます。

①今後重要となるデータ活用において、AIの原理から構築実習、社会実装までを学ぶ「AI技術実践講座」、②心身の健康の知識を習得し健康経営やコミュニティづくりに貢献できる人材育成を目的とした「ウエルネスライフ リーダー養成講座」、③ライフサイエンス分野の研究者から多様な研究を紹介するリレー形式のセミナー「CopeLab.」（コペラボ）です。

「CopeLab.」は、2025年春からオンラインサロンとして運用します。シリーズセミナーのアーカイブ配信や業種・業態を超えての意見交換等による融合をもとに、新しい領域を切り拓く「フロンティアプラットフォーム」として、人材育成の新しい形を創出していきます。

事業内容 / 経営支援、ライフサイエンス分野の人材育成の企画・運営、各種団体の運営支援を行っています。
所在地 / 大阪市中央区久太郎町4-1-3 大阪センタービル6階 billage OSAKA
URL：https://www.copelcs.jp

阪急阪神ホールディングス株式会社

「健康寿命の延びる沿線」実現に向けて

グループ開発室
事業開発部部長　西水 卓矢

「健康寿命の延びる沿線の実現」を目標に掲げたものの何をすべきかわからず右往左往していた時に、「“科学的予測に基づく個別健康の最大化”を目標に、アカデミアや企業が生み出す様々な研究成果の社会実装を、阪急阪神の多様な住民接点を活かして支援してほしい」とお声がけ頂き「渡りに船！」と「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」に参加して10年…。
まだ先の話、と思っていた2025年問題―団塊世代の後期高齢移行による社会保障制度、医療介護体制の逼迫―に直面する年を迎えました。
リサコンで手取り足取りご指導頂きながら、PHRアプリ「いきいき羅針盤」、「非侵襲版」健康計測、成果連動型民間委託契約方式(PFS：Pay For Success)導入による自治体連携事業、当社社員の健診・レセプト等データを活用した京都大学との共同研究による「発症予測AI」、PHR活用による重大疾患の重症化・再発予防等様々な施策に取組んできましたが、「KOBEウェルヘルスコミュニケーションサイト」が、これらの成果を、皆様と共創・結実できる場になることを期待しています。

事業内容 / 都市交通、不動産、エンタテインメント、情報・通信、旅行、国際輸送の6つをコア事業と位置付け、京阪神圏から全国、海外に展開。

PHR
「いきいき羅針盤」

発症予測AI
「健康AIコンパス」

株式会社三井住友銀行

SMBCグループの神戸医療産業都市への取組について

公共・金融法人部
部長 酒井 俊

弊行は、神戸リサーチコンプレックス協議会の前身である「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」が2015年にJSTプログラムに採択された際から幹事社として参画しております。
立上げ当初の事業化推進体制整備をグループ会社の日本総合研究所と支援、オープンイノベーションやビジネスマッチングにも注力すると共に、弊行の東京本店や神戸本部の会場を提供し各種イベントを共催することで情報発信にも努めるなど、神戸におけるヘルスケアエコシステムの創出に貢献して参りました。
SMBCグループでは中期経営計画において、「社会的価値の創造」を基本方針の一つに掲げ、主体的に取り組むべき重点課題の中に「少子高齢化」を設定しています。
具体的な取組として、医療データの情報銀行を通じて、健康増進や健康寿命の延伸に貢献することを目指しています。
今後とも神戸医療産業都市から生まれたシーズの社会実装を支援して参ります。

株式会社三井住友銀行 公共・金融法人部 / SMBC のマザーマーケットである神戸において、地域活性化や地方公共団体との取引企画や推進を担当。　所在地：神戸市中央区浪花町 56　URL：https://www.smbc.co.jp/

シスメックス株式会社

より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。

技術戦略本部R＆D戦略部　シニアプランナー 杉迫 直子

シスメックスは、一人ひとりの生涯にわたるヘルスケアの旅路「ヘルスケアジャーニー」がより良いものになるよう、テクノロジーとソリューションで支えています。
重要な役割を担う検査・診断にさらなるイノベーションを起こすとともに、個別化医療や新たな治療の領域においても、さまざまなステークホルダーとの協創を通して、ユニークな価値を提供していくことを目指しています。
神戸リサーチコンプレックスは、「個別健康の最大化」を目指して、地域の研究機関、企業、大学等が連携した研究開発、事業化、人材育成を一体的に展開するための活動基盤として発展してきました。
特に、健康や医療に関する解析データ等を活用した健康状態の予測に関する研究開発や実証的な取り組みが生まれてきました。これまでの実績を土台として、今後も神戸医療産業都市を中心としたイノベーションの創出が加速することに期待しています。

事業内容 / 臨床検査（血液・尿などの検査）機器、検査用試薬、ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

健康"生き活き"羅針盤リサーチコンプレックス	2015	11月26日	JSTプログラム採択	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の平成 27 年度新規事業「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム」採択
	2016	4月12日	シンポジウム	「健康"生き活き"羅針盤リサーチコンプレックス」事業開始記念シンポジウム 「個別健康の最大化～"ヒト（human）"を軸とした異分野融合研究開発の推進～」を開催
	2020	3月31日	事業期間終了	「健康"生き活き"羅針盤リサーチコンプレックス」事業実施期間終了
神戸リサーチコンプレックス協議会		4月 1日	協議会設立	理化学研究所 健康"生き活き"羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラムを継承した組織「神戸リサーチコンプレックス協議会」（事務局 神戸市・兵庫県）が設立
		8月 5日	シンポジウム	神戸リサーチコンプレックス協議会キックオフシンポジウム 「感染症の渦中で健康を考える!! 健康関数のパワーとヘルスケア DX」を開催
		11月～	KRC勉強会開始	コア事業に関連する勉強会を開始。第一線で活躍する研究者を講師に迎え、会員企業等の知見の蓄積、ヘルスケア産業の活性化を目指す取り組みを進めた
		12月18日	シンポジウム	「神戸市民PHRの未来とスタートアップの活躍～市民PHRと新ビジネス、スタートアップの関係とは～」を開催
	2021	3月12日	シンポジウム	2020年度報告会「データサイエンスから考えるヘルスケアの未来」を開催
		6月～	企業発表会開始	会員企業よりヘルスケアに関連する自社事業や将来構想、シーズやニーズ等を発表いただき、事業化に向けた連携やマッチングの促進を行うことを目的として企業発表会を開始
		9月30日	シンポジウム	「Well-being×健康関数 - ヘルスケアから見た Well-being とは -」を開催
	2022	2月 8日	シンポジウム	「デジタルヘルスの今 －企業から生まれるヘルスケアイノベーション－」を開催
		3月14日	シンポジウム	2021年度報告会「デジタルヘルスで加速するヘルスケアの社会実装!!」を開催
		5月31日	公募事業開始	2機関以上の会員で連携して実施する実証プロジェクトに、100万円を上限に補助する「ヘルスケアアプリケーション実験工房補助金」公募事業を開始
		8月26日	シンポジウム	「市民の健康データを活用したデータサイエンスの社会実装」を開催
		12月13日	シンポジウム	「スマートシティが求める市民の生活データ・ヘルスケアデータ」を開催
	2023	3月14日	シンポジウム	「神戸での PoC 実証で描くヘルスケアデータ利活用の未来」を開催
		12月13日	シンポジウム	「エピジェネティック年齢って何？ －エイジング研究の今－」を開催
	2024	9月 6日	シンポジウム	「データで導く ヘルスケアイノベーション －神戸リサーチコンプレックス協議会からの報告－」を開催
	2025	1月17日	シンポジウム	「プレシジョンヘルス最前線 －健康の見える化を目指す－」を開催
		3月26日	イベント	「神戸リサーチコンプレックス協議会の振り返りと神戸医療産業都市におけるこれからのヘルスケアの取組」を開催
		3月31日	活動終了	「神戸リサーチコンプレックス協議会」の設置期間終了に伴い活動を終了

KRC勉強会開催実績

2020 年度（全４回）

テーマ：コア事業「健康関数®」「市民 PHR」などの知見の共有

2022 年度（全３回）

テーマ：「個別健康の最大化」を実現するための健康評価に関する最新研究

2024 年度（全４回）

テーマ：「ヘルスケアアプリケーション実験工房補助金公募事業」を通じた課題の共有・取組の総括

企業発表会開催実績

全13回（会員限定含む）

その他セミナー開催実績

１回　テーマ：「健康関数® とフェムテック」

ヘルスケアアプリケーション実験工房補助金公募事業

2022年度採択案件

①ウェアラブルスマートデバイスとアプリのデータ連携によるビジネスモデル実証
幹事機関：ミツフジ株式会社

②薬局でのフレイルチェック結果データの健康アプリへの連携による効果検証
幹事機関：公益財団法人 こうべ市民福祉振興協会

③健康トークンによる自律分散幸福社会の構築
幹事機関：サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

2023年度 採択案件

①有酸素運動がストレスに及ぼす影響の検証
幹事機関：株式会社アシックス

②健康いきいき羅針盤アプリユーザーへのプッシュ通知による薬局での毛細血管測定参加者データ取得実験
幹事機関：あっと株式会社

これまでの登壇者　2020年度～2024年度（五十音順）

【アカデミア】

奥野 恭史先生（京都大学）、片岡 洋祐先生（神戸大学）、加藤 浩晃先生（デジタルハリウッド大学）、國澤 純先生（医薬基盤・健康・栄養研究所）、榑林 陽一先生（神戸大学）、黒田 知宏先生（京都大学）、竹村 匡正先生（兵庫県立大学）、菱本 明豊先生（神戸大学）、前野 隆司先生（慶応義塾大学）、水野 敬先生（神戸大学）、山川 義徳先生（神戸大学）、渡辺 恭良先生（神戸大学）

【企業他】

IQVIAソリューションズジャパン株式会社(現 IQVIA ソリューションズジャパン合同会社)、株式会社アシックス、あっと株式会社、アルケア株式会社、株式会社ヴェルト、特定非営利活動法人永寿神戸ロボケアセンター、エーテンラボ株式会社、N I DRIVE 株式会社、株式会社 OKEIOS（現 CMIC Trust 株式会社）、株式会社カネカ、認定特定非営利活動法人健康ラボステーション、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構、公益財団法人こうべ市民福祉振興協会、株式会社 COPELコンサルティング、サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社、株式会社資生堂、一般社団法人次世代健康社会・ヘルスケア推進協会、株式会社住化分析センター、大日本住友製薬株式会社（現 住友ファーマ株式会社）、株式会社電通、dentsu health、株式会社トータルブレインケア、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社、一般社団法人日本リカバリー協会、歯っぴー株式会社、一般財団法人浜松光医学財団 浜松PET 診断センター、浜松ホトニクス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、一般社団法人プレシジョンヘルスケア研究機構、マクセル株式会社、株式会社 MEETSHOP、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、ミツフジ株式会社、ミリマン・インク、株式会社 Mealthy

これまでの参画機関一覧　2020年度～2024年度

2自治体、14アカデミア、84企業等（五十音順）

【自治体】

神戸市

兵庫県

【アカデミア】

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所ヘルス・メディカル微生物研究センター

学校法人関西大学

学校法人甲南学園（甲南大学）

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構

学校法人神戸学院（神戸学院大学）

国立大学法人神戸大学

学校法人神戸薬科大学（神戸薬科大学）

学校法人樟蔭学園（大阪樟蔭女子大学）

学校法人帝塚山学院大学

学校法人中内学園（流通科学大学）

学校法人濱名山手学院（関西国際大学）

学校法人兵庫医科大学

兵庫県公立大学法人兵庫県立大学

国立研究開発法人理化学研究所

【企業等】

IQVIA ソリューションズジャパン合同会社

株式会社青粒

株式会社アシックス

味の素株式会社

あっと株式会社

アフラック生命保険株式会社

アルケア株式会社

株式会社池田泉州銀行

株式会社ヴェルト

特定非営利活動法人永寿（神戸ロボケアセンター）

エーテンラボ株式会社

株式会社エクサウィザーズ

N I DRIVE 株式会社

NEC ソリューションイノベータ株式会社

emol 株式会社

大阪ガス株式会社

大阪商工会議所

小田急電鉄株式会社

オムロンヘルスケア株式会社

株式会社カネカ

京セラ株式会社

認定特定非営利活動法人健康ラボステーション

公益財団法人こうべ市民福祉振興協会

神戸商工会議所

神戸都市振興サービス株式会社

株式会社こうべ未来都市機構

株式会社 COPEL コンサルティング

株式会社コロナ

株式会社 ZAIKEN

サントリーウエルネス株式会社

サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

塩野義製薬株式会社

シスメックス株式会社

株式会社資生堂

一般社団法人次世代健康社会・ヘルスケア推進協会

CMIC Trust 株式会社

シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社

株式会社神鋼環境ソリューション

公益財団法人新産業創造研究機構

株式会社 Splink

株式会社住化分析センター

株式会社住田光学ガラス

住友生命保険相互会社

住友ファーマ株式会社

積水化学工業株式会社

株式会社総合医科学研究所

SOMPO ひまわり生命保険株式会社

ダイキン工業株式会社

大正製薬株式会社

大日本印刷株式会社

田辺三菱製薬株式会社

株式会社電通

株式会社トータルブレインケア

東洋紡株式会社

株式会社ドクターミール

公益財団法人都市活力研究所

株式会社ナード研究所

長瀬産業株式会社

西日本電信電話株式会社兵庫支店

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

株式会社日本政策投資銀行関西支店

日本予防医薬株式会社

一般社団法人日本リカバリー協会

株式会社ノーリツ

特定非営利活動法人バイオグリッドセンター関西

歯っぴー株式会社

一般財団法人浜松光医学財団 浜松 PET 診断センター

浜松ホトニクス株式会社

阪急阪神ホールディングス株式会社

株式会社ファンケル

一般社団法人プレシジョンヘルスケア研究機構

マクセル株式会社

株式会社 MEETSHOP

三井住友海上あいおい生命保険株式会社

三井住友海上火災保険株式会社

株式会社三井住友銀行

三井不動産株式会社

ミツフジ株式会社

ミリマン・インク

株式会社 Mealthy

ライオン株式会社

株式会社 RACTHERA

株式会社ラスイート

株式会社リコー

おわりに

2015 年度から 2019 年度まで実施された「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」、そして 2020 年に設立された「神戸リサーチコンプレックス協議会」は、神戸医療産業都市を中核として産業、学術、行政、金融の各プレイヤーが参加し、異分野融合による最先端の研究開発を推進し、その成果を事業化するために活動してきました。
様々な領域で活躍する皆様に参画いただき、実りある活動を実施できたことに感謝申し上げます。

神戸でのヘルスケアの発展のための取組は今後も前進を続けます。
来年度からは神戸リサーチコンプレックス協議会の機能を一部継承した新たな取組が実施されますので、下記「KOBE ウェルヘルスコミュニケーションサイトについて」をご一読いただき、ご興味があれば神戸市までご連絡ください。

最後になりましたが、本冊子の作成にあたりご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

神戸リサーチコンプレックス協議会事務局

KOBE ウェルヘルスコミュニケーションサイトについて

神戸医療産業都市では、ヘルスケア産業の発展及び神戸市民が参画する健康な街づくりを目指した取組を「KOBE ウェルヘルスコミュニケーションサイト」と命名し、活動していくことといたしました。今後も、神戸市が事業主体となって（公財）神戸医療産業都市推進機構と連携して事業を進めていきます。

本サイト内に、協議会の一部機能を継承する形で、ヘルスケア分野の各企業・アカデミア等が参画する「KOBE ウェルヘルスネットワーク」を新たに構築します。ネットワーク会員に対しては、「ヘルスケア市民サポーター(※)」などから把握した市民ニーズに基づき、アカデミアや企業の最新研究について情報発信するとともに、関心のある企業・アカデミアなどのコミュニケーションの場や市民との意見交換の場などを提供します。本ネットワークで取り扱う具体的なテーマについては、随時市民ニーズの抽出を行いながら、市民関心の高いものを幅広く取り扱っていく予定としています。
(※) ヘルスケア製品・サービスの開発にモニターとして参画いただいたり、行政から健康情報を積極的に発信する市民(約3,000人(令和 7年2月時点))

神戸では今後もKOBE ウェルヘルスネットワーク会員の皆様と連携し、ヘルスケアに関する取組を続けてまいります。皆様の参画をお待ちしております。

神戸市医療産業都市部

健康“生き活き”羅針盤
リサーチコンプレックス

神戸リサーチコンプレックス協議会事務局
（神戸市企画調整局医療産業都市部）

〈お問い合わせ先〉
〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1
Tel ：078-322-6569
Mail：iryo_suishin@city.kobe.lg.jp

※本書の無断転載はご遠慮ください。